

「米海軍艦艇の小樽港入港に関する申し入れ」を実施

連合北海道は、米海軍ミサイル巡洋艦「アンティータム」が2月1日から、第七艦隊旗艦・揚陸指揮艦「ブルーリッジ」が2月8日から小樽港へ「親善」を目的として入港しようとしていることを受け、1月28日、在札幌米国総領事館と北海道に対しこれに反対するよう申し入れを行った。



申し入れでは、度重なる入港は小樽港を準軍港として固定化を狙うものであること、地位協定と照らし合わせても入港が友好親善とは考えられず、米軍の調査および訓練であること、また市民に軍事的役割を平時から準備させ『慣れ』を強要するものであると指摘。さらに、日口交渉や小樽経済に影響を及ぼすことも懸念されると訴えた。

これに対し、在札幌米国総領事館レイチェル・ブルネットーチェン首席領事は「貴重な意見として承った。こうした要請があった旨、米国大使館と在日米軍に伝える。あくまで入港は『親善』。こうした地域との交流・親善活動は乗務員にとって大切な機会と考えている。」と述べた。

北海道辻井宏文危機対策局長は「道としても、何より安心・安全が大切だと理解している。今回は入港の判断途中であるが、入港となった場合はしかるべき要請など対応をとっていきたい。」と述べた。これに対し連合北海道は、「武器を搭載した軍艦を乗りつけての親善はあり得ない。道民の反対の声をしっかり伝えてほしい。」と要望した。